

日常診療勉強会

# 創傷処置のポイントとアイデアを交流



(写真↑)和やかに交流した  
 (写真→)アドバザの守本先生  
 (左)と司会の岡野先生(右)

## 淡路支部ニュース

2017. 12. 15  
No. 337

兵庫県保険医協会淡路支部  
 〒656-1313 洲本市五色町  
 結原西9-2 たかたクリニック内  
 ☎0799-3012272

淡路支部では11月25日、サンライズ淡路において日常診療勉強会「創傷処置について語り合う会」を開催、医師7名が参加した。アドバイザーとして守本圭希先生(たまき診療所・南あわじ市)を招き、司会を支部幹事の岡野浩和先生(しおかぜ診療所・淡路市)が務めた。

参加者同士で創傷処置に関する疑問点などを出し合い、診療上のヒントについて深めた。

医師としてはじめに習得した創傷処置が、湿潤療法の登場によって大きく変化したことについては、湿潤療法を基本としながらも、

汚染をコントロールして実施することがポイントであることが共有された。

また、褥瘡への処置について、どのような被覆材を使うのか、浸出液の管理のしやすさや、コスト面からも議論し、それぞれの先生が工夫して取り組んでいるアイデアを交流した。

傷の治療という観点から縫合についても質問が出され、3方向から縫合しなければならぬ場合の疑問点についても議論した。

守本先生は、形成外科専門医の立場からこれまでの経験などに基づき、参加者の疑問にこたえた。

医療安全研修会

季節性感染症への対応を実習で確認



講師の正司貴美子氏(右端)の解説をうけながら、全員で実習に取り組んだ

淡路支部は12月2日、洲本市健康福祉館において医療安全対策研究会を開催し、医師、看護師、コメディカルら27人が参加した。今回

は「季節性感染症への対応

を中心に」をテーマとして、

兵庫県立淡路医療センター

の感染管理認定看護師、正

司貴美子氏が講師を務めた。

まず代表的な季節

性感染症としてイン

フルエンザとノロウ

イルスの感染症につ

いて基本的な特徴を

確認した上で、それ

ぞれに対応する対策を

解説した。

流行期前から、標

準予防策の遵守や対

策に関する研修など

の準備が必要であること、  
流行期には地域の発生状況  
にも注意しつつ、疑い例に  
は対策をとる必要があると  
した。

発生時の対応としては、

標準予防策に加え、インフ

ルエンザでは飛沫感染・接

触感染への予防策、ノロウ

イルスには接触感染予防策

が必要であると解説した。

後半は、ゴーグル・手袋・

ガウンの着脱を参加者全員

で実習し、着用者が感染性

微生物に接触しないような

脱ぎ方を確認した。また、

嘔吐物の処理についても解

説、汚染を広げない方法を

実践でトレーニングした。

減点事例や算定方法などご相談ください

納得のいかない減点事例や、レセプトの記載、算定方法など、  
保険請求に関するご相談を受け付けています。困ったことがあ  
れば、悩まずすぐにご連絡を。

お問い合わせは、

(医科) TEL078-393-1803 (歯科) TEL078-393-1809

兵庫県保険医協会まで